



柏原中だより

令和7年3月卒業記念号 狭山市立柏原中学校

〒350-1335 狭山市柏原2520-11 TEL04-2954-5073 生徒数 258 名

＜学校教育目標＞ 今を精いっぱい生きる・凡事徹底 ○希望を持って進む生徒

3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

令和6年度 卒業生の埼玉県特別表彰等 3月12日(水)

(1) 令和6年度 埼玉県教育委員会 児童・生徒表彰

3年2組 さん

(2) 令和6年度 体育優良児童・生徒表彰

3年3組 さん、 3年1組 さん

(3) 令和6年度 埼玉県産業教育振興会小・中学校優良卒業生表彰

3年2組 さん



大成功！素晴らしかった「インサイド・ヘッド」 三年生を送る会<3月5日>

三年生を送る会が、3月5日(水)の5、6校時に開かれました。会全体は、映画「インサイド・ヘッド」をモチーフにし、3年生の脳内を様々に喜ばせるという設定で進みました。1年生の発表は、3年生が1年生だった2年前の思い出を寸劇で表し「春風の中で」を合唱しました。2年生の発表は、電車に乗って3年間を振り返る寸劇を車掌さんが案内する設定で、最後は「ハルカ」の合唱でした。その後、ステージ背面に設置された戸口空奏さん原画のビッグアート披露。吹奏楽部の発表では、「星に願いを」「ぼくらまた」を演奏し、「ジャンボリミッキー」では全校が立ち上がってのダンスとなりとても盛り上がりました。思い出のスライドは、絶えず歓声上がるような構成でとても楽しいものでした。3年生の発表は、体育祭の寸劇から団ごとの応援合戦の歌で入場し、学生時代を振り返り、人生を語る「正解」の合唱でした。途中、下級生に向けて部活や委員会の場面での感謝の呼びかけが入りました。そしてフィナーレは、3年生の生徒会長の さんと現生徒会長の さんによってくす玉が割られ、紙吹雪とともに「今までありがとう」の垂れ幕が現れました。

1・2年生の3年生への感謝の気持ちがとてもよく伝えられたと思います。それと同時に、この行事を通して、1・2年生は、これから柏原中を背負っていくという覚悟が感じられました。感動的で、とても素晴らしい三年生を送る会でした。こんな素晴らしい三年生を送る会ができる柏原中がとても誇らしく思いました。生徒の皆さん、先生方、本当にありがとうございました。会の後、ビッグアートはそのまま体育館に、その他体育館を飾った3年生へのメッセージを含む掲示物は校舎1階の3年生廊下に掲示してあります。

三送会スローガン：「Best Memory～輝く先輩に幸せな未来を～」



壁面装飾 (左)



(左)



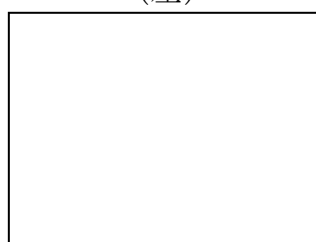
(ステージ左)



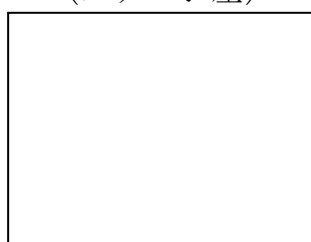
(右)



インサイド・ヘッド



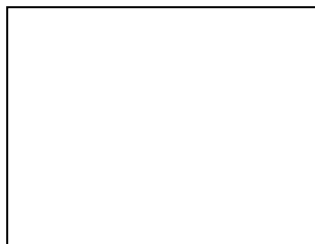
1年生発表



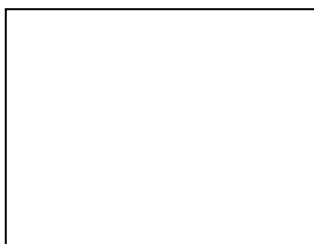
2年生発表



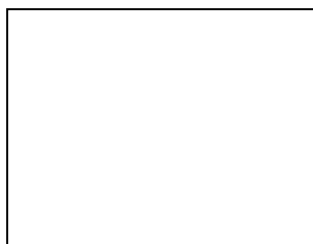
ビッグアート



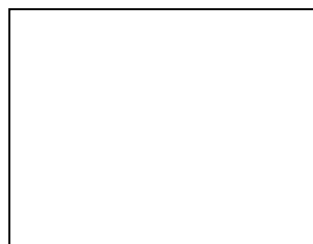
吹奏楽部発表



3年生発表



くす玉大成功「今までありがとう」



実行委員

※この他「思い出のスライド」がありました。

第3学年進路講演会「私が体験した南極観測隊の話」 <2月28日>

2月28日（金）3校時に3年生に対して進路講演会が行われました。高野先生の教え子である東京農工大学工学部附属ものづくり創造工学センター技術専門員の先生が第43次南極観測隊（冬季隊）気水圏系担当として参加された時のお話をしてくださいました。今のものづくり創造工学センターの仕事のこと、南極観測隊に参加できることになった時のこと、南極での仕事のこと、そして、オーロラや太陽が地平線を転がるように動く動画など、とても普段は聞いたり、見たりできない貴重なお話を聞き、映像を見せていただきました。最後は、「南極に行くにはどうしたらいいか」自費で行く場合と仕事で行く場合（どんな仕事に就けばいいか）に分けてお話していただきました。とても興味深い内容で、素晴らしい講演会となりました。



令和7年3月14日（金） 第43回卒業証書授与式 校長の式辞を掲載します

※ 縦書きの書式だったため、数字が漢数字になっています。
式辞

新しい息吹が満ちあふれる春の季節を迎えようとしています。校舎の外壁塗装もきれいに仕上がりました。

本日は、ご多用の中、狭山市教育委員会教育長 滝嶋正司 様、狭山市議会議員 内藤光雄 様、同じく笹本英輔 様、柏原小学校長 長嶋照代 様、本校PTA会長 富吉泰仁 様、学校運営協議委員の皆様のご臨席のもと、第四十三回卒業証書授与式が挙行できますことに、心より感謝と御礼を申し上げます。

八十八名の卒業生の皆さん、ご卒業、おめでとうございます。皆さんは、私にとって一緒にこの柏原中学校に入り、一緒に三年間を過ごした初めての学年でした。

皆さんの中学校生活は、前半はまだ新型コロナウイルスの影響を受け、世界情勢も不安定で、国内でも大きな自然災害など、平和と命の大切さを感じずにはいられない時間でした。そのような中でも、皆さんは柏原中学校にたくましく素晴らしい足跡を残してくれました。関西方面へと行程と日程を変更した修学旅行、友だちと友情を育んだ部活動、下級生をリードした体育祭、市民会館大ホールに歌声を響かせた音楽会など、学校を良い方向へと導いてくれました。また、先日の木下淳先生の進路講演会、ファイナルバンケットも忘れられません。本当に素晴らしい学年でした。ありがとうございました。

私から一つ話をします。皆さんがこれから歩んでいく社会は、AI人工知能やロボット、高度情報通信など科学技術が進展する一方、災害からの復興、地球規模の環境問題、エネルギー問題など様々な課題と向き合っていかなければなりません。私たちの生活は大きな変化を求められます。このような変化の大きな時代を生き抜くには、進化論で有名なイギリスの生物学者ダーウィンの言葉がヒントになります。「最も強い者が生き残るのではない 最も賢い者が生き残るのでもない」生き残るのはどんな者でしょうか。ダーウィンは言っています。「唯一生き残るのは変化できる者である」と。つまり、環境に合わせて変化し続ける者が生き残るということです。

これからの人生で皆さんは、様々なことに出会っていきます。その時にそれまでの固定観念に縛られずに変化をししなやかに、たくましく、そして、柏原中学校で三年間目指した学校教育目標「今を精いっぱい生きて」いってほしいと思います。応援しています。

結びに、保護者の皆様、お子様のご卒業、誠にありがとうございます。今日まで、慈しみ育まれ、愛情を注がれてきた保護者の皆様の長い間のご労苦に敬意を表するとともに、お子様の成長をあらためてお祝い申し上げます。加えて、三年間、本校の教育の充実と発展のため、様々な面でご理解とご支援を賜りましたことに厚く御礼を申し上げます。

卒業生の皆さんのそれぞれの進路でのさらなるご活躍をお祈りするとともに、洋々たる前途をお祝いして、式辞といたします。

令和七年三月十四日

狭山市立柏原中学校校長 稲葉 正